

長岡京市史
ふるさと
ファイル

展示コーナーだより
第7号

平成14年10月
長岡京市立図書館



まちのグラビア

長岡京市は、今年市制施行30周年を迎えました。昭和30年代から発行されてきた「町勢要覧」や「市勢要覧」で、まちの移り変わりをふりかえってみましょう。

展示期間：10月2日(水)～12月1日(日)



時代を映す

要覧の目的は、今の概況を住民にわかりやすく知らせることで、地勢・沿革・行政・議会・産業・保健衛生・教育文化から治安・消防まで、まちの全般がコンパクトにまとめられています。

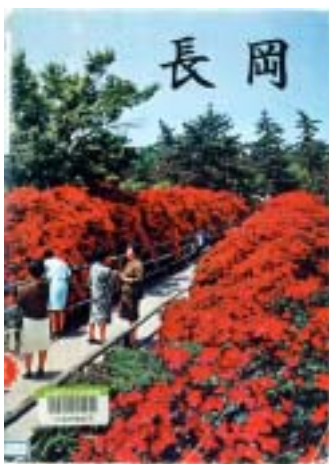
総務課が編集した長岡町期のものは、統計を中心に、「図や写真を挿入してわかりやすく」というスタイルが基本ですが、しだいに写真が多用されるようになってきます。

市制が施行され、秘書広報課が編集するようになると、この傾向は一層強まり、統計は「資料」として巻末または別冊として分離し、地図もダイジェスト版を兼ねて別につくられるようになります。

統計や図を中心としたものから、写真やイラストをふんだんにつかったよりビジュアルなものへ、編集のしかたは時代のニーズや企画の目的によって変わってきましたが、町勢要覧・市勢要覧は、わがまちの時代を映す「グラビア」といってよいでしょう。



まちのイメージ



昭和44年発行(町制20周年)
この年、キリシマツツジが町の花になりました。

わたしたちのまちはどんなまちか。そのイメージを象徴するのが表紙です。

まちのシンボルとして取り上げられるのはキリシマツツジ、竹、タケノコ、モミジがやはり代表格ですが、近年はこれに勝竜寺城公園が加わります。

平成4年、勝竜寺城公園が完成したこの年に、ガラシャ祭りが始まりました。この市民まつりの定着とともに、勝竜寺城公園も新しいまちのシンボルとして親しまれるようになったのです。



昭和54年発行。竹の美しいカラー写真が使われるようになりました。



平成4年(市制20周年)



幻の庁舎

町制施行 10 周年記念パンフレットの表紙に、見慣れない建物のイラストが描かれています。これは町制施行 10 周年のころ構想されていた六角形の庁舎をイメージしたものだそうです。三カ村が合併して長岡町になる時、町役場は町の真ん中につくることになっていたのですが、この当時はまだ、元の新神足村役場を使っていました。

この後、庁舎建設が具体化するなかで検討が行われ、昭和 36 年 1 月に完成した町役場の新しい建物は、御覧のとおりとなりました。



昭和 34 年当時の
町役場構想図



新築移転した町役場



展示資料

10月2日(水)～


11月3日(日)

長岡町期の町勢要覧

11月6日(水)～

12月1日(日)

市制期(昭和50年代まで)
の市勢要覧



ワープロの普及で、身の回りの文字も活字が多くなり、手書きの文字にふれる機会が少なくなりましたね。ましてや毛筆となると・・・。

月一回のふるさとワークで、古文書の輪読会を行っています。江戸時代の庶民が書いた文字にふれてみましょう。慣れるまで少し根気が必要ですが、声を出して読んでみると、むかしのことは体感できますよ。

読んでみましょう！



御法度二候 じほつとにそうまつ

*「候」のくずしに慣れるのがコツです。



ふるさとワーク

10月26日(土) 11月30日(土)

*午前10時～正午 *図書館3階大会議室

